



2022 ワイルドライフ カレッジ 募集要項



認定NPO法人 野生生物保全論研究会(JWCS)



地球環境基金



独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催します

目次

01

ワイルドライフ
カレッジの概要

02

講師からのご挨拶と
過去受講生の声

04

前期ウェビナー
「保全の理論」

05

フィールドワーク
「保全の実践活動」

06

後期ウェビナー
「保全の活動例」

07

演習ゼミ
「主体的な活動へ」

08

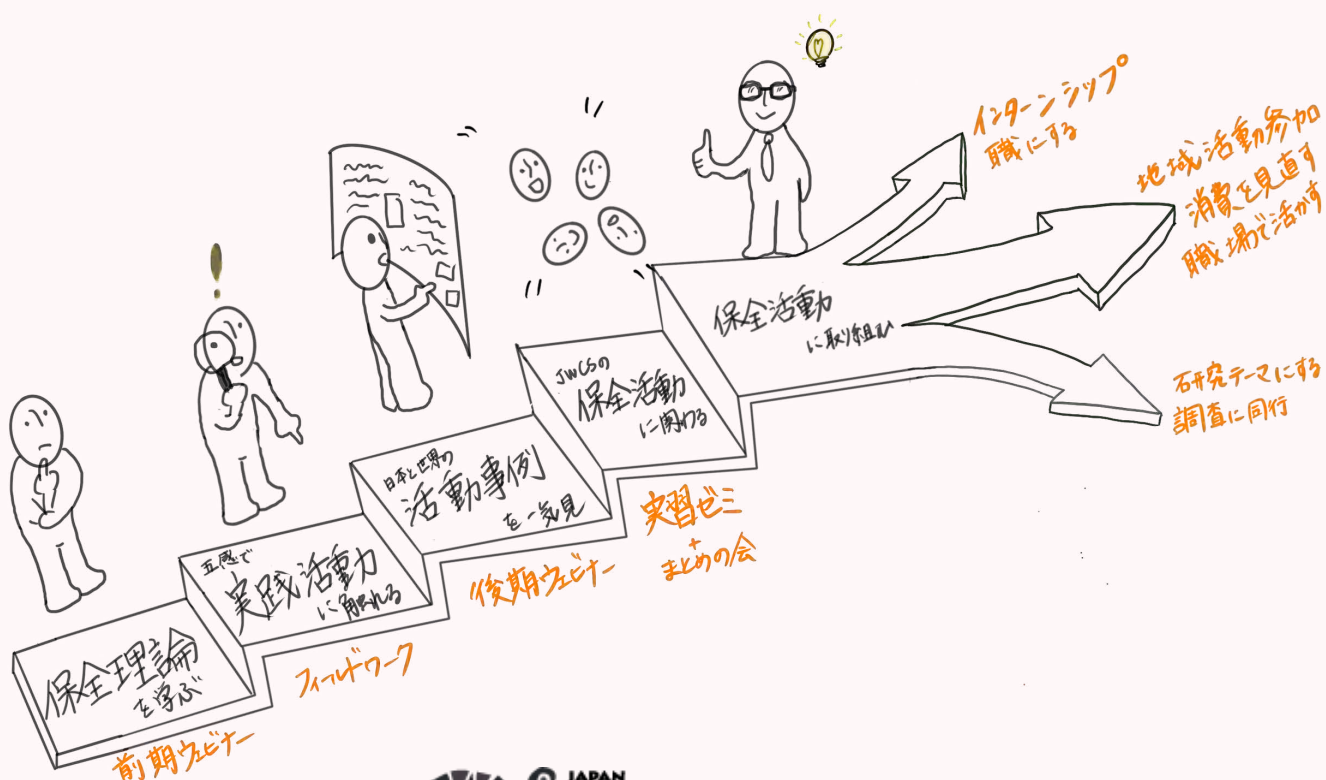
観察会
「都内で自然観察」

09

まとめの会
「成果発表」

10

JWCSとは



ワイルドライフカレッジの概要

1年後の私は、野生生物のために何かができるようになっている

みなさんの「一年後の私は、野生生物のために何かができるようになる」を目指して、



をステップごとに学ぶ「ワイルドライフカレッジ」を開講！
ワイルドライフカレッジ受講後には、
自分の得意とする分野で野生生物保全に取り組めるよう後押しします。

野生生物を守るには、多様な分野の方からの力が必要です。
野生生物と共存する未来には、動物や植物に詳しい人だけでなく、
農林水産業、経済や外交、法律や政策、報道や教育、まちづくりや福祉と、
多様な分野の専門家たちが協力し合うことが重要です。
そのため、多様なバックグラウンドを持つ方々の受講をお待ちしています。

	期間	場所	内容
前期ウェビナー	7/20, 7/27, 8/3, 8/10 (全4回)	オンライン	保全の理論を学ぶ (録画あり) #保全理論 #生物多様性 #生物相互作用 #生物資源の利用 #市民活動
フィールドワーク	9/24-9/25	宮城県蒲生干潟	(土) (現地集合) 現地講師と参加者で事前学習 (日) 保全活動のフィールド見学・ディスカッション (現地解散) #保全活動の実践 #開発と保全 #震災復興 #石炭火力発電所
後期ウェビナー (講師日程調整中)	10月中旬～ (全4回)	オンライン	多様な保全活動の紹介 (録画あり) #保全活動の事例 #取引と種の絶滅 #海洋生物 #砂漠化 #ワシントン条約
演習ゼミ	12～2月	オンライン	普及啓発・研究活動をJWCSと共に実践
まとめの会	2月11日 (祝)	東京都 上野駅周辺	今年度の振り返りと次年度の企画 (内容、広報)

講師からのご挨拶



小川 潔

JWCS理事

東京学芸大学名誉教授

生物多様性保全という言葉は国際条約にもなって、世界中で理解されつつあります。しかし、気候変動や温暖化のようにストレートに響く状況にはまだまだ至っていません。一方で、40年ほど前に、JWCSの創始者である小原秀雄さんが、産業革命後の200年間に生物種の絶滅は急カーブで進み、「一日一種、生物が絶滅している」と警鐘を鳴らしたのに、今や一日6種の生物が地球上から失われているという報告が出ています。

野生生物というと、なにか遠い存在のように感じていませんか。でも、メダカやタンポポといえど、身近な生き物だったのではないのでしょうか？パンダの赤ちゃんで上野動物園では大フィーバーが起こっていて、親近感が湧きます。でも、上野のパンダ誕生は絶滅に瀕した野生生物の増殖事業なので、上野で生まれた子パンダは生息地である中国へ返す約束になっています。

身近な自然から高山や海洋の生き物にまで、危機は迫っています。知識を増やしたい、何かしたい、どうしようと感じるあなた、今まで考えて来なかったあなた、この機会にぜひワイルドライフカレッジを受講して、明日の保全活動に踏み出してってください。

みんなの声

ワイルドライフカレッジ参加者

JWCSはワイルドライフカレッジを2002年から2009年に実施していました。
今回はオンラインとオフラインを組み合わせた、新生ワイルドライフカレッジです。



ぱんだみゆき さん（2003年受講）

小さい頃から大好きだった野生生物を守る活動がしたい、でも何から始めればいいのか分からない、そんな大学生活を送っていた頃に出会ったのがワイルドライフカレッジでした。そもそも野生生物とは何か？人間との関わりは？NPOの活動とは？

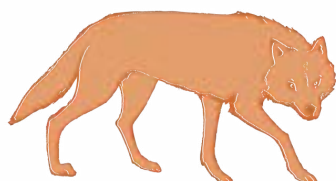
カレッジを通して、大学では教えてくれない新しい視点から、野生生物の今を知ることができました。



社会人・女性（2006年受講）

ワイルドライフカレッジの全体を通じて、自然の動植物に対して人間が行なってきた事とその結果絶滅した動植物があったことを学び、野生生物と人間の共生のあり方や関わり方を学び、現在の絶滅危惧種に対する繁殖・回復という手段を実際に行なっている活動や動物園の取り組みを知りました。この野生生物の保全について考える前提となる一連の流れを、書物やTVではなく、実際の活動や研究に携わっておられる方々の実体験を通じて講義していただける機会はなかなかないと思うので、受講できた事はとてもよかったと思いました。

（会報No54 より転載）



参加者 さん（2004年受講）

なぜ野生生物を保全するのか、それをどう訴えていけばいいのかを考えること。意識改革、法整備、運用のそれぞれの大切さがよく分かった。

（会報No54 より転載）

前期ウェビナー 「保全の理論」を学ぶ

保全活動をしていると、意見が対立することはよくあります。話し合ってもなかなか理解し合えないとき、保全に対する根本的な認識が違っていたということがあります。実践活動をよりよく理解するために、まず保全の理論を学び、考えてみましょう。

● 受講要申込（下記QRコードから、またはJWCSのHPをチェック）

● 全4回の参加費：4000円
（各回1000円、ただし学生無料）



学生



一般

1. 「ファジー（曖昧）な用語で市民権を得た生物多様性」

講師：小川 潔（JWCS理事・学芸大学名誉教授）



“生物学的多様性（Biological diversity）”ではなく、“生物多様性（Bio-diversity）”という言葉で世界的に普及した概念を、タンポポ類を例に解説しながら、生物多様性保全の基本を考えていきます。

#生物多様性 #地理的隔離 #自然選択と偶然性 #生物間相互作用

2. 「身近な自然と、私たちができること」

講師：小川 潔（JWCS会長・学芸大学名誉教授）

生物多様性保全の具体的な現場で起こる悩ましい問題を通して、活動する上で心がけたいことや、社会的な理解を拡げていくことの重要性について考えていきます。

#外来種と在来種 #餌やり #普通種の減少 #地域のアイデンティティ形成

3. 「“賢明な利用”とはなにか、誰にとっての“賢明な利用”なのか」

講師：湯本 貴和（京都大学霊長類研究所元教授）



自然を利用して利益を得る人たちと、その結果として自然枯渇や自然災害などの被害を受ける人たちは必ずしも同一ではありません。この隔離が対応の遅れや事態の深刻さが伝わらない原因になっています。この隔離によって生まれる問題の対処方法について、考えていきましょう。

#自然資源の利用 #持続可能な利用 #自然の枯渇や災害 #受益者と負担者

4. 「地球サミットからSDGsまで 進展する市民活動、グ・ローカルの視点から」

講師：古沢 広祐（JWCS理事・國學院大学客員教授）



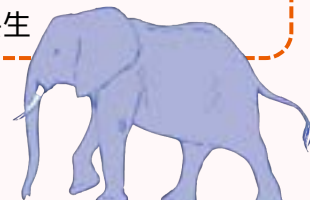
ローカルな自然保護が、グローバルな地球環境問題と密接につながっています。国際環境条約やSDGs（持続可能な開発目標）がどのように生まれたか、市民セクターが果たしてきた役割、これからの地球市民が目指す自然共生ビジョンについて、幅広く考えましょう。

#地球サミット #SDGs #国際環境条約 #市民活動 #自然共生

04



認定NPO法人 野生生物保全論研究会(JWCS)



フィールドワーク 「自然との繋がり」を感じ学ぶ

前期ウェビナーの受講により、自分に関わりのある自然環境やその利用、そして過去の出来事から保全について考え、学んでいきました。次のステップとして、実際に保全事業を実施するフィールドへ足を運び、前期ウェビナーを再考します。国の鳥獣保護区特別区域に指定され野生生物の宝庫であった宮城県の蒲生干潟は、2011年の東日本大地震の影響で一時「沈黙の干潟」となりました。蒲生を守る会は、回復不可能とまで言われた蒲生干潟の再生を目指し、懸命な自然再生活動を行い、回復に近づいてきました。この自然再生活動や、活動過程で衝突した河川堤防の大規模復旧工事等による自然破壊など、長年の実践活動から得られた課題や取り組みを、実際に見て学びます。

#開発と自然保護 #自然再生 #震災復興 #石炭火力発電所反対運動

- 日程：9月24日～9月25日
- 場所：宮城県・蒲生干潟
- 希望者のみ（定員15名）
- ※8月後半に募集・選考を行います
- 現地講師：熊谷佳二氏（蒲生を守る会）
- 現地集合・現地解散
- 宿泊費・食費や現地までの交通費は自己負担
- ※ 講習の費用およびマイクロバスによるフィールドワーク中の移動の費用は地球環境基金の助成で行います。
- ※ 学生には現地までの交通費及び宿泊費に補助が出ます（申込者の状況により金額が変わります）
- 参加条件（定員 15名）
 - ・ 前期ウェビナー全受講
 - ・ 書類審査「前期の講義を踏まえフィールドワークで学びたいこと」等



後期ウェビナー 「日本と世界の保全活動例」



野生生物保全に関する国内外の活動事例や研究から、経済活動や政治・外交、地域社会など、人間社会の問題を解決することが野生生物の保全になることを確認していきましょう。前期で学んだ保全の理論が、意見の相違の根底にあることに気づくことでしょう。

● 受講要申込（下記QRコードから、またはJWCSのHPをチェック）

● 全4回の参加費：4000円
（各回1000円、ただし学生無料）



学生



一般

#保全活動の事例 #貿易と種の絶滅 #海洋生物 #砂漠化 #ワシントン条約

1. 「野生動物との距離を考えるーホエールウォッチングを中心に」 10/12 19:30-21:00



講師：水口 博也（写真家・ジャーナリスト）

近年多くの人びとが野生動物の観察に出かけ、野生動物との接触機会が多くなることで、動物を“愛する”人びとがもたらすインパクトが無視できなくなっている。野生動物との距離をどうとるべきか、その倫理性も含めて考えます。

2. 「Global trade and consequences for biodiversity」 10/19 19:30-21:00 （世界貿易と生物多様性への影響）



講師：Abhishek Chaudhary（スイス連邦工科大学助教）

野生生物の保全には、各国の消費と国際貿易による世界中の生物多様性への影響を理解することが必要。世界の土地利用と種の絶滅を調べたところ、現在の世界の土地利用の影響により、合計927の固有種が絶滅すると予測された。研究結果をもとに、世界貿易がもたらす地球規模での生物多様性への影響を考えていく。

3. 「西アフリカの砂漠化と「緑のサヘル」の活動」 10/26 19:30-21:00



講師：菅川 拓也（緑のサヘル事務局長）

アフリカ・サハラ砂漠の南に位置するサヘル地域では、砂漠化の進行によって多くの森林や動物が失われており、住民生活は危機的な状況に陥っています。砂漠化の現状とNGO「緑のサヘル」の取り組みをご紹介します。

4. 「CITES CoP19における世界の野生生物保全の争点と主張」 12/7 19:30-21:00



講師：JWCS事務局スタッフ

11月に開催される3年に一度のワシントン条約（CITES）の第19回締約国会議（CoP19）の会場で、参加者（政府代表、NGO、研究者等）を取材する予定です。参加者の声から最前線の野生生物保全の論点を考えます。

06



認定NPO法人 野生生物保全論研究会(JWCS)

演習ゼミ

自分テーマで主体的に保全活動

全8回のウェビナーを受講して、どのようなテーマに関心を持ちましたか？関心を持ったことを一人一人の得意な方法で行動に移す準備として、JWCSの事業の中で発信をしてみよう。

以下のコースからやってみたい活動を選び、演習ゼミの指導者とオンラインで連絡を取りながら実践します。



● コース

【研究コース】

- ・ 関心のあるテーマを調べてレポートを書きます。
- ※ 「ワイルドライフカレッジ受講者のレポート」として、JWCSのブログ“note”に掲載
- ※ ブログは普及啓発活動の一環であるため、掲載できるレポートはJWCSの活動方針に沿ったものであることを予めご了承ください。
- ※ レポートは演習ゼミの指導者と対話をしながら執筆します。文字量の定めはありません。
- ※ 講習生の成果発表として「まとめの会」を開催します（次項参照ください）

【教育普及コース】

- ・ JWCSのポットキャストを使ったラジオ番組「生きもの地球ツアー」をグループで作成します。生きものに関する質問を専門家にインタビューをして番組を作成します。
- ・ 3月3日の「国連野生生物の日」のイベントをグループで企画し、実施します。

● 学生・ユース優先

● 後期ウェビナー終了時に参加者を募集します（定員25名）

● 応募条件

- ・ 前期・後期ウェビナー全受講
 - ・ 以下の項目についての書類審査
- ① 各ウェビナーについて受講して考えたこと
 - ② 研究レポートまたはラジオ番組にしたいテーマ



観察会 都内の自然を改めて感じてみる

都内の自然環境を専門家と一緒に観察してみよう。

東京・上野駅から歩いて行ける距離にある不忍池にも自然は息づいています。ワイルドライフカレッジの受講後は見過ごしていた都市の自然の価値に気づくかもしれません。

● 日程：2月11日（土・祝）

※ 雨天決行

● 時間：10時～12時

● 現地講師：小川 潔（JWCS理事）

● 場所：東京都・不忍池周辺（現地集合・現地解散）

● 参加費無料

● 内容：

不忍池では、水鳥の観察が主となりそうですが、池そのものの観察、人と池あるいは野鳥との関係性も視野に入れたいと思います。

餌やりを自らはしないで水鳥を観察する、鳥の数を数えてみる、鳥の種類を見分けてみる、鳥の声を聞き分ける、枯れた植物から夏の様子を想像してみるなどです。

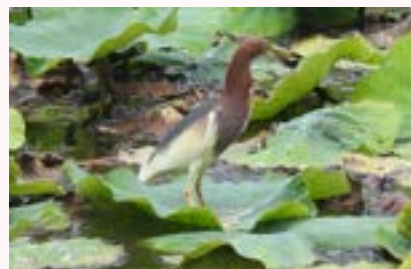
その日だけの観察結果と、長期にわたる観察結果を組み合わせてみるのが重要です。ここにガイドの存在意義があります。

過去の小学生向けの観察授業では、水鳥の姿を絵や言葉で表現するということもやりました。頭の毛が後ろにたっているキンクロハジロを見て「ねぐせがも」というニックネームを付けた子がいて、のちに新聞のローカル版に載りました。

（小川潔）

● 参加対象者

・ワイルドライフカレッジ受講者・JWCS会員・ご寄付いただいた方で参加をご希望の方



まとめの会

振り返りと次のゴールを定める

野生生物保全の理論、国内や海外の活動事例を学び、実際にJWCSの一員となり活動した一年間を振り返ります。オンラインで個別に実践活動をしていた演習ゼミの受講生が集まって、活動成果の発表会を行います。

● 日程：2月11日（土・祝）

● 時間：13時～15時

● 場所：上野駅周辺の貸会議室（現地集合・現地解散）

※ 遠方の学生には、地球環境基金の助成により交通費の補助があります

● 参加対象者

演習ゼミ受講生。ワイルドライフカレッジ受講者・JWCS会員・ご寄付いただいた皆様もご希望の方は受講生の発表を傍聴することができます。

※ 1月に参加者を募集します

● 参加費無料

● 内容

・ 演習ゼミの参加者による活動発表、意見交換

・ ワイルドライフカレッジの感想

・ 次年度のワイルドライフカレッジへの要望

（ワイルドライフカレッジの企画運営ボランティア、インターン募集）



JWCSとは



認定NPO法人 野生生物保全論研究会(JWCS)

1990年発足時から絶滅のおそれのある野生生物の商業取引を中心に、野生生物の視点に立って、野生生物保全に関わる多くの活動を行なってきました。さまざまな国際会議に参加していますが、特にワシントン条約の国際会議に、日本から参加している数少ない団体のひとつです。皆様の会費や寄付で活動を行なっています。

● 絶滅危惧種の国際取引

- ・ 野生生物ペット
- ・ 象牙取引
- ・ 過剰漁業
- ・ 伝統薬の原料となる動植物 など

● 持続可能な消費・生産

をテーマに、

1) 調査・提言

科学的なアプローチ調査を行い、それをもとに政府等へ政策提言

2) 生息地支援

絶滅危惧種の生息地における野生生物保全活動に対する支援活動

3) 国際会議参画

国際会議に参画し日本の非営利組織としての意見表明や国際的な動向を把握

4) 普及啓発

国内外から研究者を招いたセミナー開催と出版物作成などの普及啓発事業をおこなっています。

お問い合わせ

↓お問い合わせはお問合せフォームから↓

<https://www.jwcs.org/contact/>

TEL : 070-4342-5697



お問合せフォーム



JWCSのホームページ